

平成 28 年度環境省事業計画(案)

●エゾシカ個体数調整捕獲(達古武地区)

達古武地域では、平成 25 年度以降 3 カ年にわたり試験捕獲と個体数調整捕獲を実施してきたが、未だ相当な数のエゾシカが生息していると考えられる。引き続き囲いわなでの捕獲が効率的であると考えられることから、今年度も囲いわなによる個体数調整捕獲を実施する。

▶大型囲いわな

○自然再生事業苗畑周辺(H27 と同位置)

- ・昨年度の餌付け誘因状況から、引き続き効率的な捕獲が期待される。

▶小型囲いわな(体重計測式わなを想定・複数?)

○自然再生事業地土場(H25・26 大型囲い設置地点)

- ・体重計測式わなの技術開発(作動体重の設定等)

○東の沢

※ワイヤーメッシュ式は、捕獲個体が傷ついたり、野犬との軋轢が懸念されるため使用しない。



図 2-1 本業務で捕獲試験を行う予定地

● 釧路川右岸堤防における捕獲手法検討・試験捕獲

釧路川右岸堤防は、湿原中心部に生息するシカの捕獲を考える上で重要であるが、多雪年の冬期には生息数が少ないという報告もある。今冬の状況により捕獲が可能な状況であれば、捕獲手法検討を行い、試験捕獲も試みる。

▶ 小型囲いわな(体重計測式?)

○横堤周辺

・ 秋期において生息数の多い場所で、平地も多く、囲いわな設置に適した立地。

・ 大型囲いわなも設置可能と思われる。

○赤沼周辺

・ 保全上重要な場所であるが、囲いわなの設置可能な立地が限られる。

・ 限られた立地における囲いわなの運用可能性試験。

▶ 流し猟式シャープシューティングのシミュレーション

○冬期における実施可能性試験

・ 秋期であれば個体数が多すぎてシャープシューティングとまらない可能性があるが、冬期ならどうか。

・ 適した時間帯はいつか。

● 道道 1060 号線沿線における捕獲手法検討

生活道路や公園利用道路として利用されている道路であり、釧路川では周年カヌーや釣りが行われていることから、公園利用者等との軋轢を生じず安全に実施可能な捕獲手法を検討する。

▶ 小型囲いわな(体重計測式?)

○湿原(ハンノキ林)内での運用試験

・ 道路から見えづらい立地で運用可能か。

・ 植生等への影響はどうか。

▶ 流し猟式シャープシューティングのシミュレーション

○安全な実施可能性、捕獲見込み頭数の算定

・ 交通量や公園利用者等の状況を把握しつつシミュレーションを行い、適した実施時間帯や、捕獲見込み頭数の算定を行う。

●その他の候補地の検討

(1) 目的

塘路湖とコッタロ展望台を結ぶ道道 1060 号線沿線はエゾシカの大規模越冬地であるが、この地域は地形が非常に平坦で、また、この道道が生活・観光道路として利用されているため、道道沿線においては最適な捕獲手法を見出せていなかった。しかし、この地域を利用しているシカは、時間によって近傍の山林を利用している可能性が高いことが分かってきた。

そこで、本業務ではこの道道 1060 号線付近を利用するシカを、周辺の林縁部で捕獲することを念頭に、捕獲の適地を調査することとした。

(2) 調査地と手法

本業務で捕獲候補地の調査を行った地域を図 2-2～図 2-4 に示し、その詳細を以下に述べる。

① 茅沼地域

釧路川に隣接しており、また駅や温泉などが近く、狩猟圧があまりかからないであろう場所。ヒアリングでは、春季に多くのシカが釧路川を伝って、茅沼付近を通過して北へ季節移動していくといわれている。釧路湿原自然再生事業により釧路川の再蛇行化が行われた場所。

② 塘路地域

塘路湖の南側の、河畔湿地沿いの民有林内で、シカが多く利用していると言われていたが、一般狩猟を含めて人の往来が多い。

③ 鶴居地域

この地域はキラコタン岬と道道 1060 号線の上に伸びる道路の終点と、久著呂川直線化区間の先端に位置し、農地と湿原を行き来するシカがいる可能性がある。

これらの調査地において捕獲候補地をそれぞれ設け、シカの痕跡、土地所有者の状況や意向、地形等の情報収集をした。さらにこれらの中で有望であると考えられた箇所に関しては、餌や自動撮影装置を設置して、出没するシカの様子を観察した。



図 2-2 茅沼周辺の捕獲候補地調査場所（黄色は調査地名）

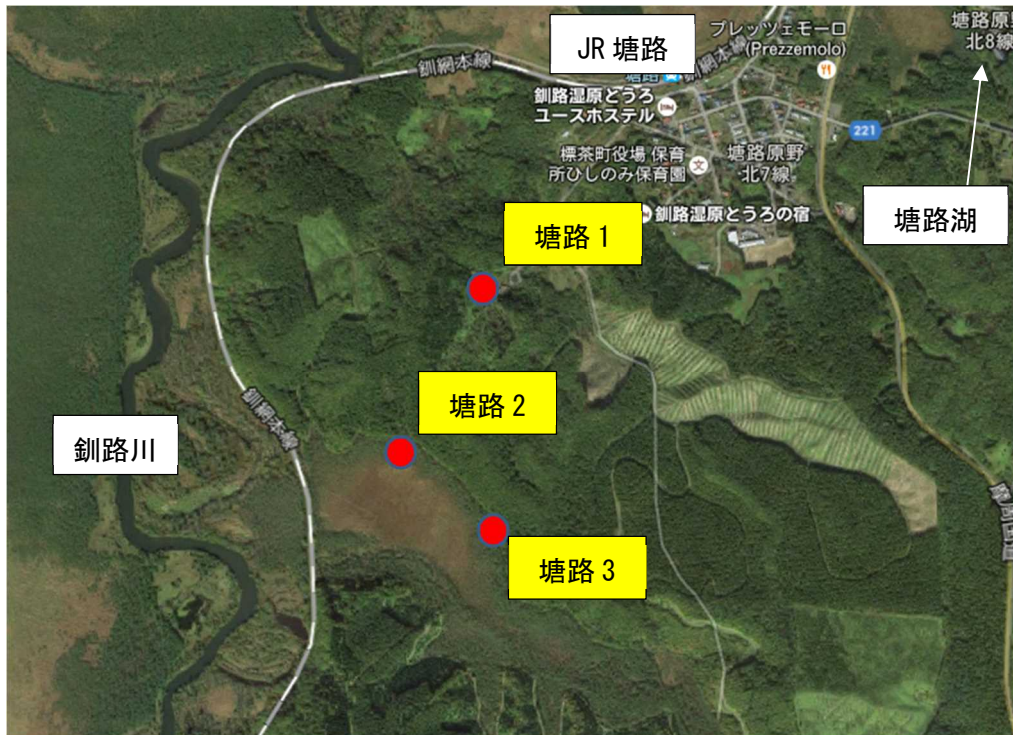


図 2-3 塘路湖周辺の捕獲候補地調査場所（黄色は調査地名）

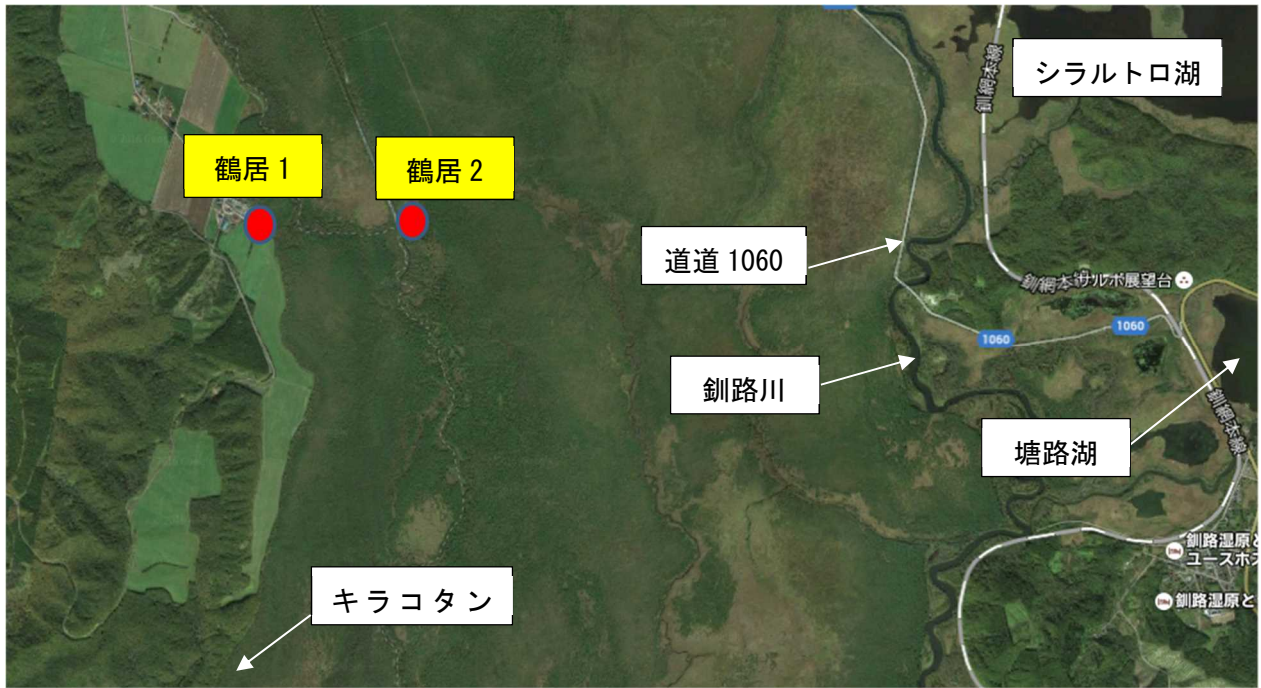


図 2-4 鶴居地域における捕獲候補地調査場所（黄色は調査地名）

(3) 調査結果

①予備調査の結果

試験餌付けや自動撮影装置の観察に入る前に実施した事前調査の結果を表 4-1 にまとめます。

表 2-1 事前調査の概要一覧

地点名	痕跡や目視	土地所有者の意向	概況	カメラ設置	試験餌付
茅沼 1	多い	協力的	河畔林や周辺の林の林床に夥しい痕跡がある。 土地所有者は事業に協力的。カヌーポートが近い。土地が若干狭い。	○	○
茅沼 2	多い	協力的		○	○
塘路 1	多い目視	不明	塘路の調査プロットの中では最も一般道が近い。痕跡は非常に濃厚。ただし人家等が近い。痕跡は非常に濃厚。		○
塘路 2	多い	不明	塘路 1 プロットから 1 つ尾根を越えたところにある湿地。林道が通じるが雪が解けると道が悪いのが欠点。しかし、この湿原はバックストップもあり、人家も遠いので事業は実施しやすい。		○
塘路 3	多い	不明	上記の近くにあり、線路により遠い谷の奥に位置する箇所。塘路 2 と同様に、周辺には民家もなく事業がしやすいが、道路が遠く、ユニック等は使用できないと考える		○
鶴居 1	多い目視	協力的	広大な牧草地が広がる農家で、林縁のハンノキ林等からシカが出現する。実際に下見では多くのシカを目撃した。農地のために舗装道路がない。地形が平坦すぎて、バックストップがない。シカの痕跡が多く、農家も被害に困っているとのこと		
鶴居 2	多い	不明	地域の農家が食肉利用のために自主的にワナを設置している。湿原内部に最も近いので場所は有利であるが、地域の取り組みを阻害する可能性を考え、本業務の調査からは除外した。		

②茅沼1の状況

カヌーポートに近く、周辺住民は当該地の土地所有者1件のみ。土地所有社は非常に協力的。

カヌーポート脇の河畔林の林床は非常に濃厚なシカの痕跡があり、間違いなく冬季にシカが多くこの箇所を利用しているものと思われた。設置した餌の消費状況から、警戒心の比較的低い個体群が周辺を利用しているものと予想される。

カヌーポートに近いため銃器の使用せず、囲いわなの使用が適当である。

表 2-2 茅沼1における誘引状況

日付	給餌量(g)	採食状況	カメラ 撮影枚数
2月14日			
2月15日			
2月16日	200	—	0
2月17日	—	なし	0
2月18日	—	—	14
2月19日	—	—	2
2月20日	200	完食	0
2月21日	—	なし	1
2月22日	—	—	2
2月23日	—	—	0
2月24日	—	完食	

給餌: 圧片大麦100g、ビートパルプペレット100g

「—」は、見回りを行わなかった日

③茅沼2

「茅沼1」と同じ土地所有者で、JRの線路から踏切を渡ってすぐの場所であり、釧路川からやや離れている。シカの痕跡は非常に濃厚で、「茅沼1」よりも多くのシカが自動撮影カメラで撮影された。線路や道路に近いため、囲いわなによる捕獲が適当と考えられるが、餌付け誘引により交通事故を誘発しないか、注意が必要。

表 2-3 茅沼2における誘引状況

日付	給餌量(g)	採食状況	カメラ 撮影枚数
2月14日			
2月15日			
2月16日	200	—	1
2月17日	—	なし	1
2月18日	—	—	25
2月19日	—	—	5
2月20日	200	完食	0
2月21日	—	なし	3
2月22日	—	—	8
2月23日	—	—	3
2月24日	—	完食	1

給餌: 圧片大麦100g、ビートパルプペレット100g

「—」は、見回りを行わなかった日

④塘路 1

民有林林道沿いで、廃屋や放置された畑のある平坦地で、シカは放棄されたサイレージ等を採食していた。湿原と山間部を行き来するシカ道が多数確認され、頻繁に利用しているものと思われる。

表 2-4 塘路 1 における誘引状況

日付	給餌量(g)	採食状況	カメラ 撮影枚数
3月14日	—	—	カメラ未設置
3月15日	—	—	↓
3月16日	—	—	
3月17日	200	—	
3月18日	—	—	
3月19日	—	—	
3月20日	—	なし	
3月21日	—	なし	
3月22日	—	—	
3月23日	—	—	
3月24日	—	完食	

給餌: 圧片大麦100g、ビートパルプペレット100g

「-」は、見回りを行わなかった日

餌設置 4 日後まで採食されず、「茅沼 1」「茅沼 2」と比較すると、少し餌への食いつきが弱いように感じられたが、食べ始めてからは速やかに全量消費された。

道路が近くユニックも近寄ることができるため、大型囲いワナによる捕獲の可能性が考えられる。しかし、民家が近いため、事前の合意が必要。また、林道の先は可猟区であるため、一般狩猟者に関する情報収集も必要。

⑤塘路 2

「塘路 1」から林道を南に進んだ地点で、湿原と山林が面した場所である。湿原内には非常に多くのシカ道などが観察された。候補地周辺は低い尾根で囲われていて、これがバックストップとなり、銃声も遮られるため、銃器による捕獲には適している。

ただし、道路が狭くトラックは進入できない。また、線路が隣接するため餌付け誘引を行う場合は事故の誘発が懸念される。

表 2-5 塘路 2 における誘引状況

日付	給餌量(g)	採食状況	カメラ 撮影枚数
3月14日	—	—	カメラ未設置
3月15日	—	—	↓
3月16日	—	—	
3月17日	200	—	
3月18日	—	—	
3月19日	—	—	
3月20日	—	10%	
3月21日	—	なし	
3月22日	—	—	
3月23日	—	—	
3月24日	—	20%	

給餌: 圧片大麦100g、ビートパルプペレット100g
「-」は、見回りを行わなかった日


⑥塘路 3

「塘路 2」から林道を東へ進んだ場所にある。内陸に入り込んだ湿原の端にあたり、JR の線路からはかなり離れるが、トラックなどは入りにくく、徒歩でもアクセスが難しい。銃器か小型囲いわな、くくりわなが適当。

表 2-6 塘路 3 における誘引状況

日付	給餌量(g)	採食状況	カメラ 撮影枚数
2月14日	—	—	カメラ未設置
2月15日	—	—	↓
2月16日	—	—	
2月17日	200	—	
2月18日	—	—	
2月19日	—	—	
2月20日	—	なし	
2月21日	—	なし	
2月22日	—	—	
2月23日	—	—	
2月24日	—	90%	

給餌: 圧片大麦100g、ビートパルプペレット100g
「-」は、見回りを行わなかった日







	
<p>民有林にある平坦な土地（塘路 1）</p>	<p>日中にシカの親子を目視した（塘路 1）</p>
	
<p>放置サイレージを採食されている</p>	<p>食痕の様子</p>
	
<p>塘路 1~2 をつなぐ林内（造林地）</p>	<p>山間部の造林地の様子</p>
	
<p>湿地と山間部を行き来しているシカ道</p>	<p>湿原の林縁部の風景（塘路 2~3）</p>

⑦鶴居 1 及び鶴居 2（現地目視による調査のみ）

鶴居 1 の周囲は広大な牧草地である。鶴居 2 は、久著呂川の自然再生事業における土砂調整地付近に位置する。近隣農家にヒアリングしたところ、シカが非常に多く、被害を受けており、主に湿原から牧草地にシカが現れるとのこと。現地を観察していると、実際に湿原と農地の境界付近にオスの群れが出現した。

鶴居 1 は、アクセスに牧草地内を利用することとなり所有者の協力が不可欠。鶴居 2 は、近隣で囲いわなによるエゾシカ捕獲を行っている民間事業者があるため、不適。

踏査した場所の林内はアクセスができそうな道が存在し小型囲い罠を設置できるスペースが存在した。

	
<p>周辺環境の例</p>	<p>林内から牧草地へ出ているシカ道</p>
	
<p>牧草地の横を流れている水路</p>	<p>小型囲い罠が置けそうなスペースの例</p>
	
<p>牧草地に出てきていたシカの群</p>	<p>湿原内の様子（ハンノキ）</p>

(4) まとめ

- ・茅沼地域は、湿原と丘陵地を行き来するシカが多数生息する場所であるが、捕獲候補地が線路や道路と近く、銃器が使いづらい上、餌付け誘引による交通事故の誘発も懸念される。
- ・塘路地域は、湿原と丘陵地を行き来するシカが生息する場所であるが、シカの餌付けへの反応は鈍く、トラックが進入できないなどの障害がある。
- ・鶴居地域は、農地と湿原を行き来するシカが生息する場所であるが、近隣で民間事業者によるエゾシカ捕獲事業が行われていることなどから、環境省で捕獲を行うことは適切でない。

- ・以上のことから、今回調査した3地点はいずれも一長一短があり、コッタロ地域に生息するシカを効果的に捕獲することができる場所とは言えないと思われる。そのため、当面は現在個体数調整捕獲や捕獲手法検討を行っている3地域（達古武地域、コッタロ地域、右岸堤防地域）について、引き続き優先して実施していくこととしたい。